

のみ社会福祉法人連絡会とのタウンミーティング

日 時 令和5年7月18日（火）19時30分～20時30分

会 場 辰口福祉会館 多目的ホール

参加者数 26名

1. 開会

2. 市長講演

○はじめに、令和5年度の予算編成方針について

・令和5年度の予算編成は、これまでの事業・施策の7つの柱全てが「移住・定住の促進につながる」ということで取り組んできている。どうして移住・定住の促進かというと、自治体の繁栄あるいは発展を図る上でのいろいろな数値、K P I（重要達成度指標）の中で、私は人口が増えている、あるいは維持しているというのが一番分かりやすい指標ではないかと考えているから。

・令和5年度は新たに5つの方針・目的を掲げている。

1つ目は、災害対策。これは、去年の8月4日の大雨を受けてしっかりと対策を施していく。

2つ目は、認知度・知名度の向上。今、能美市は企業誘致が大変好調で、人材確保をどうやっていくかということが課題になっている。大都市圏等々から人材を確保したいということに取り組んでいるが、大都市圏の中で「能美」という知名度はまだまだ低い。「のみのみ過ごそう」というキャッチコピーを使った取り組みに、能美市名誉観光大使の松井秀喜さんにも登場していただいている。また、サンリオ人気キャラクター「シナモロール」を能美市応援大使に迎えた。

3つ目は、市民力・地域力の強化。市民力・地域力というのは能美市にとって最大の強み。新型コロナウイルス感染症拡大に伴って人流が制限され、市民力・地域力が大分低下した。もう一回これを強めていきたい。

4つ目が自然動態の増進。人口というのは社会動態と自然動態があり、もう一回、自然増に挑戦する。国は、今異次元の子育て施策をやっている。

最後はGX。昨年度末に能美市もカーボンニュートラル宣言をした。2013年のCO₂の排

出量に対して、2030年には半減させる、2050年にはゼロにするという目標を掲げて今取り組んでいる。これらに取り組むに当たっては、行政だけではなし得ず、市民の皆さんのお力添えがなくてはできない。

- ・昨年度からここにデジタルの力を取り入れている。さらに市民の皆さんの安全・安心あるいは利便性の向上にも取り組んでいく。

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、生まれてくる赤ちゃんの人数が減った。

- ・能美市には、外国人が約1,500人住んでいる。人口に占める外国人の割合は、県内19市町の中で能美市がナンバーワン。新型コロナウイルス感染症の拡大で減っていた外国人の社会増が復活し、今は自然減に対して社会増が補っている状況。

いかに自然減をとどめて社会増をどう伸ばしていくか、「移住・定住」という最終の目的に向けてどうやって取り組んでいくか。

- ・プラス面では、企業誘致が好調で、新たに1,000人の雇用が生まれる。大都市圏からいかに来ていただくか。住む場所の確保も必要。住宅用地不足を受け、現在は宅地造成を併せてやっている。

○デジタル化の推進について

- ・1つ目は、あんしん子育て、あんしん在宅生活。2つ目が、あんしん防災と基盤づくり。3つ目が、デジタル公民館。この3本柱でいろんな取組を始めている。

そして、「スマートインクルーシブシティ」を今目指している。インクルーシブとは、誰一人取り残さない、いわゆる地域共生社会。スマートというのは、デジタル。デジタルを使ってインクルーシブシティを目指そうというのが今の能美市がやっているデジタルでの取組方針。

- ・昨年度から始めている事業を3つ紹介

1つ目は「見守りあんしんマップ」。これまでは、独り暮らしの市民を対象に毎年10月から11月に民生委員児童委員がお訪ねをして、「あなたどんな病気にかかっているの?」「どんな薬飲んでるの?」「緊急連絡先はどこですか」ということを調査をして、紙に書いて、封筒に入れて、冷蔵庫等に入れてもらっていた。今これをデジタル化しようということで、取組が始まっている。

2つ目は「医療介護連携」。病院に入院をしていた市民が家に戻って介護を受けられるという場合に、ケアマネさんがいろんな情報が欲しいのになかなか手に入らない。手に入

れた情報のほとんどが鉛筆書きで紙に書いてある。そんなことをデジタル化させて、より便利にしていき、医療と介護の連携を強化をしていく。

3つ目は「能美市LINE」。これまでいろんな緊急な情報を防災行政無線を使って市民の皆さんにお伝えをしていました。防災行政無線のある場所にいなければ大切な情報を聞き漏らしてしまう。文字ベースで伝えるために能美市LINEを開設をした。

・今年度から新たに始める事業

チャットで「うちの子今こんな症状なんだけれども、どうすればいいですかね」と問合せすると「こういう対応をしてください」、それから「どこの病院へ行けばいいですか」と問い合わせると返信が来る、そういう「オンライン医療相談」の取り組みを始めている。

独り暮らしの高齢者等々を対象にした「体調・健康管理」。腕時計みたいなものをはめることで、心拍数や脈拍等々がデータ化され、もし異常がある場合にはすぐ誰かが駆けつける仕組みや、空気の中に含まれているいろんな成分とか物体を測定をし、何か異常がないか計測をする大変優れたものの空気清浄機の活用を考えている。

「個別避難計画」。独り暮らしの高齢者等々が、災害があったときにどんな行動をしてもらえるのか、誰が助けに来てくれるのかというようなこともデジタルの力を使ってしっかりと関与していくことを始める予定。

「デジタル公民館」。市内には約80の公民館があって、公民館にWi-Fi機能を備えて、いろんなことをやり始める予定。1つ目は、公民館での出前講座、スマホ教室の実施。2つ目は、eスポーツやeゲームの実施。3つ目は、学習支援。児童生徒がタブレットを家へ持って帰って宿題をする、そのタブレットを使っていろんな情報を取り入れた場合、ご自宅にWi-Fi機能がない、スピードが遅いという場合に、公民館に来て実施してもらうことが可能。

「STEAM教育」。子育てが一段落をしてもう一回社会復帰したい場合、いろんなスキルをもう一回身につけたい、あるいは今までの仕事の仲間と情報の交換をしたいという場合、公民館のウェブ環境の中でいろんな情報を取り入れたり、スキルアップのための教室を実施していこうというもの。

「健康相談・健康指示」。公民館に行ってお医者さんの診療を受けられるようにするもの。いろんな制約があり、乗り越えなくてはならないハードルもある。

「センサーネットワーク」。お子さんが学校からの帰り道に、ちゃんと公民館の横通ったかな、通学路をちゃんと通ったかなというようなことや、公民館の周りの積雪や降水量

が分かるようにカメラをあちこちに設置するもの。

「証明書の発行」についても、市役所に行かなくても公民館で入手できるようにする。

・ 今後は、ネットで注文をすればドローンが公民館まで運んでくれるような「買い物」など、時代に先駆けていろんなことができないかなということを考えている。

○事業所のデジタル化の支援策について

・ 市内でタブレットの配布を進めている。まず保護司に配布した。新型コロナウイルスの影響で直接面談ができないということで、タブレットを使ったウェブ面談を実施でき、いろんな相談が充実したと聞いている。

・ 町会長・町内会長、民生委員児童委員にもタブレットを配布し、それぞれの仕事をタブレットを使ってやるようにし始めている。

・ 今後は、皆さんの事業所やケアマネージャーにも配布を計画している。

・ デジタルの導入支援に関して、広報のみやホームページ等、いろんな媒体を使って市民の皆さんに分かりやすく伝えていく。

○能美市の最近の福祉の取組について

・ 今は、第4次の地域福祉計画と、社会福祉協議会の計画と両輪で進めている。縦割りにならないように、横系をつなげ、いろんな連携を強化しながら進めている。

・ 「人づくり」では、小学生や高校生あるいは健康づくり推進員等々を対象にこの福祉の施策を取り組んでいってもらうために、いろんな教室や説明会をやっている。

・ 「地域づくり」では、SDGsに取り組んでいる個人や事業所をサポートすることをやり始めている。毎月15日のふれあいあいさつデーでは、登校する子どもたちに声かけをして地域の連携を深めようというようなこともやっている。

・ 「支援づくり」では、互助・共助を支える取り組みをさらに進めていくというようなことで、いろんな事業をやっている。

・ 「居場所づくり」では、最近、悩みが多重化し、お一人でいろんな悩みを持っている人が多くなってきており、課題を持っていらっしゃる人たちが増えてきているということで、その居場所をつくろうということでのいろんな取り組みの強化もし始めている。

「あんしん相談センター」。いろいろな専門員の人たちにそれぞれがそれぞれの分野でサポートしてもらえるような、あんしん相談センターづくりを近年、強化し始めている。

「インクルーシブ・プレイグラウンド」。障がいをお持ちのお子さんも安心して遊べる、そんな公園をクアハウスの隣に整備した。

「生活支援ハウス」。ここをさらに活用すべく、生活困窮、ひきこもりでお悩みの皆さんにここに来て相談をしてもらう、あるいは少しそこで住んでもらうというような、そんな施設に生まれ変わった。

「亀齢荘」。ここも地域共生交流館ということで、この場所を高齢者のみならず、お子様や障害をお持ちの皆さんにも楽しんでもらえる場所にしようということで、今、リニューアルをしている。

・「いきいきプラチナプラン」。第9期、今年度見直しを始めている。第8期でこの名称を「プラチナ」というものに変えた。65歳以上の人たちにもっと活躍をしてもらうような、そんなプランにしようということから名前を「プラチナ」（いつまでも輝いている。年数がたっても輝きが落ちないという意味）にした。

能美市内の町会長・町内会長は74人おり、65歳以上が58人、78%。民生委員児童委員は69%、ボランティア団体長は69%ということで、能美市全体のことはやはり65歳以上の皆さんがいらっしゃるおかげで支えられているということが改めて分かった。こういった皆さんにさらに活躍をしてもらえるような場所あるいは時間をつくっていこうということで、第9期のプラチナプランを見直している。

「ボランティアの支援」。一番主立った施策は、のみ地域力強化支援ファンド。現在は9団体に10事業をやっている。移送支援、子ども食堂、外国人支援等。新たに今後してみたいというお声があれば聴かせてほしい。

「福祉人材の確保」。介護職員として就職した場合、ご本人の家賃補助、事業所への補助金を出している。また、ビデオで登場してもらい、「やりがいがありますよ。ぜひうちの事業所で働いてみませんか」というような、ゲンバ・ヒーローズという取り組みをやっている。これまで5人の方に出演いただいた。新たにご登場いただければ。

○いしかわ百万石文化祭の実施事業について

・10月14日から11月26日まで石川県全体で開催。能美市内でも11の事業を予定をしている。コンセプトは「市民みんな参加」「全地域でやっていこう」で、市全体で盛り上げていこうという取り組みを準備している。

・福祉関係の事業を2つ考えている。

1つは「GAP FREEパフォーマンス」で、障がいをお持ちの皆さんが一堂に集って舞台の上でダンスを披露するもの。宝栄美希さんという能美市観光大使を務めているダンサーとやる予定。

もう1つは「ディスカバリーアート展」で、障がいをお持ちの人が描いた絵を集めて展示し、多くの皆さんに見ていただくもの。

周知は、市ホームページや広報のみのほか、74町会・町内会にのぼり旗を配布し、公民館や人が集まる場所に設置してもらい周知。懸垂幕も掲げて機運を盛り上げていく。

○社会福祉法人に望むことについて。

・まずは「スマートインクルーシブシティの推進」。我々と一緒になってこのデジタルの推進に対してご協力いただければ。

・それから「人材確保」。最近、外国人で介護をしたいという人が増えているということを知っている。例えば、日本語マスター、介護士資格取得にかかる費用を行政が負担し介護人材を確保するということはどうか。市として取り組むべきこと、それからこんなことに困っているんだということがあれば教えていただきたい。

・そして「災害時対応」。昨年大雨で新たなことが分かった。避難所の問題、情報伝達の問題。能美市LINEで情報を入手できているのか。新たな何か手段が必要ではないか、後から教えていただければ。

3. 質疑等

【参加者】デジタル化で大変便利なまちになったなというふうに思うが、よくよく考えると、災害時など大変なときには人がやっぱり動いている、動かさなければならない。この人材をどう確保したり、どういう仕組みを考えているのか。

【市長】デジタルをどうやって進めていくかということでお答えをさせていただくとすれば、デジタル推進課という新たな部署を設け、デジタルにたけた職員を集め、ここを中心に進めていく。この人材だけでは足りないので、外部人材も取り入れてサポートしてもらっている。

災害時の対応については、能美市にある部署をすべて役割分担し、ルールに従って動くようにしている。ただ、新たないろいろな課題も出てきている。そういったいろんな状況が出てきたときには災害対策本部に情報を入れてもらい、単独で動かないように、チーム

で動いてフォローできるような仕組みづくりもやっている。

【参加者】ぜひその仕組みをつくっていく過程を知らせてほしい。

【市長】はい。

【参加者】介護事業所では、職員をどれだけ確保するかというのは既に喫緊の問題。近く
の介護事業所では、20%から30%が外国人というところもある。外国人の人たちの日本語
教育に事業所もお金を出し、卒業した後、自分のところに来てもらえないことが結構ある
と聴いている。

医療現場には、日本語しゃべれない外国人が結構診療に来ている。問診などでストレス
を感じている。アプリもあるが、アプリでやり取りするのもストレスを感じることがある。
能美市として外国人向けの健康相談をやりますよとか、あるいは公民館を使ったそういう
ことをやりますよということを、言葉が伝わりにくい人たちに対して行っていただくこと
もありがたい。外国人にも定住していただくためには、医療面でも能美市は進んでいます
よということもPR施策の一つになるのではないかな。

外国人が能美市の介護事業所に働いていただくために、能美市からいろいろな援助をい
ただければ、介護事業所にとってもすごくいいこと。

【市長】とても納得した。市役所ではタブレットを使って「ここに話してください」と言
い、話したことを外国人の母国語文字で表示し、日本語表示もするという形で、やりとり
をしている。英語だけでなく、ベトナム語や中国語、その専門用語があったり、税金のこ
とを聞かれたり、社会保険のことを聞かれたりする。市職員に何か国語も話せる人はいな
い。

【参加者】タブレットでやり取りしているが、やっぱりストレスを感じることがある。診療
をする前に健康相談であれば、外国人にとってもそこに気兼ねなくできるのではないかな。

【市長】いろいろな可能性を考えていきたい。能美市国際交流協会の皆さんもすごく頑張
っている。能美市に来ると国際交流協会の人たちがサポートしてくれるので、能美市に住
もうという人たちもいると聞いている。医療面でも外国人の皆さん一人一人に寄り添える
ような、そんな能美市をつくっていきたい。

4. 閉会